

事務事業	107	道路の無電柱化整備					
章	3	安全で快適な、みどりのあるまち					
大項目	03	快適な生活環境づくり					
施策	02	人にやさしい道路、交通施設の整備					
事業内容							
目的	主要な区道において、電線管理者の協力のもと電線類の地中化を推進し、歩行空間の拡大と都市景観の向上を図ります。						
対象・手段	対象：地区内主要道路、都市計画道路 啓開道路等 手段：電線共同溝方式（電線共同溝の整備に関する特別措置法に基づき、電線類を収容するため、道路管理者が道路の地下に施設を整備します）						
成果（事業が意図する成果）							
道路の既存ストックの中で電線類を地中化することにより、歩行空間の拡大に伴うバリアフリー化をはじめ震災対策・円滑な消防活動の実施などの防災性の向上が図れます。さらに、都市景観の向上と良好な住環境が形成されます。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
地中化整備路線延長	電線類を地中化する区道整備予定延長	(平成21) 年度に					
		(940m) の水準達成					
		() 年度に					
		() の水準達成					
		() 年度に					
		() の水準達成					
成果の達成状況							
	単位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備考	
事業成果指標	目標値1	m	0.00	940.00	940.00	940.00	区道34-220 大日本印刷通り H17からH18まで 整備延長460m
	実績1	m	0.00	200.00	460.00	460.00	
	= /	%	0.00	21.28	48.94	48.94	
	目標値2		0.00	0.00	0.00	0.00	次期整備路線 補助72号線 H19からH21まで 整備延長220m (H19設計、H20・H21工事)
	実績2		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	目標値3		0.00	0.00	0.00	0.00	平成21年度までの整備延長 460+220+260=940m (三栄通り含む)
	実績3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
	事業の実施内容						
	平成18年度	区道34-220（大日本印刷通り）の整備(自費工事) 260m（新道部140mを含む）					
	平成19年度	補助72号線第 期（220m）の詳細設計 区道42-560（三栄通り 560m）の予備調査					

部名称		みどり土木部		課名称		道路課	
		単 位	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	0	0	0	10,504	
	人件費	千円	0	1,668	1,656	1,652	
	事務費	千円	0	55	55	67	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	0	1,723	1,711	12,223	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	0	1,723	1,711	12,223	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	0	1,723	1,711	12,223	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	0.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.00	0.20	0.20	0.20	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
事業に関する検討課題							
<p>三栄通りについては、予備調査の結果、予想以上に既存埋設物が輻輳し、共同溝の設置スペースを確保するためには企業者との十分な調整が必要です。</p> <p>また、昨年地元より要望のあった聖母坂通りの無電柱化は、埋設方式の選択などの技術的な検討に加え、地上機器の設置場所に対する地元の協力が必要です。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	3	予定していた、補助72号線の詳細設計と三栄通りの予備調査について、計画通りに作業が進みました。				
	実施の成果	2	補助72号線については、整備に向けて順調に進捗しました。三栄通りについては輻輳する地下埋設物に対する検討の必要性が明らかになりました。				
	効率性	3	委託業務を有効に活用して、効率的に設計、調査を進めました。				
	行政の関与	3	沿道の協力を得ながら、道路管理者が行っていく事業です。				
	妥当性	2	現行の電線共同溝方式は、他の地中化方式と比較して経済性・効率性においてももっとも優れた方式です。				
	施策寄与度	3	過去3年間で、自費工事による1路線の整備が完了し、区主体の2路線についても設計に着手しました。これにより、施策の実現に大きく前進しました。				
総合評価	平成19年度は、次期整備路線として位置付けた補助72号線の詳細設計と三栄通りの予備調査を予定通り実施したことから、評価をBとしました。 過去3年間の評価をBとした理由として、道路拡幅とあわせ自費工事により整備した大日本印刷通りがしゅん工し、安全で快適な歩行空間が創出されるとともに、次期整備路線と位置付けた2路線についても整備に向けた準備を進めることができましたことによります。						B 過年度評価
							18年度 B 17年度 A 16年度 15年度
改革方針	無電柱化にあたっては、地上機器の設置スペースの確保や埋設方式の選択など技術的検討を十分に行っていきます。また、既存埋設物の支障移設に多額の費用を要することから、企業者との事前調整を行い、経費削減に向けた検討を行います。 地中化の要望の強い聖母坂通りについては、道路幅員が狭い路線におけるモデルケースとして検討を進めます。沿道の方々と計画段階から十分な話し合いを行い、事業に対する理解と協力を得ながら沿道を活用した地上機器の設置等、様々な工夫を試みます。 この事業は、第四次実施計画中の「人にやさしい道路交通施設の整備」から、第一次実施計画では基本施策 - 3 - 「災害に強い、逃げないですむ安全なまちづくり」の中に位置づけ、「44道路の無電柱化整備」として継続していきます。						方向性
							1 現状のまま継続